

## まとめと今後の展望

令和4年度は、「自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究（2）教職員及び学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発」と題して学際的な共同研究事業をすすめ、下記の3点の成果を得ることができた。

第1点として、千代田区における過去の自然災害記録の教材化である。江戸時代の火災である天和の大火、そして、今年、震災が発生してちょうど100年目にあたる関東大震災、この二つの千代田区における過去の自然災害の被害状況の記録と記憶から、当時の人々が頻発する大災害下をどのように生き抜いてきたのか、過去の災害記憶を辿ることができた。さらには、こうした千代田区の過去の災害に関するウィキペディア記事を執筆するワークショップを実施することで、学生からの防災意識を高め、主体的にその情報を発信し、地域との関わりを主体的に生み出していく機会を得ることができた。これから何を学び、どのように未来に繋げていくべきか、ということを考えたい。

第2点としては、防災に必要な情報・備蓄品等のアーカイブ化をすすめることができたことである。具体的には、模擬的な帰宅困難者一時滞在支援施設における一泊二日の宿泊がストレス関連指標、ヘモグロビン濃度、脈拍数、唾液アミラーゼ活性、および心理的ストレス反応尺度に及ぼす影響を確認することができた。また、帰宅困難者支援施設におけるどのようなトラブルがあるのかを考え、そこでの課題の背景や対応策を考えるための基礎資料として、実際の帰宅困難者対策の取り組みが紹介されているサイトを集約することができた。さらには、要配慮者（乳幼児）に注目しながら、災害時の帰宅困難者に向けた栄養・食支援のあり方や、備蓄食品を用いた料理の実習効果も検証することができた。

第3点としては、帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG）を各大学の特徴を踏まえて5大学において開発・実施した。また、その学習評価をどのように進めたらよいか、教育介入を行うための評価指標も提案することができたことも大きな成果である。各大学において、KUGを防災教育の質的向上に資する教材として活用し、KUGによる図上演習を通して、万が一にも学生ボランティアとして避難施設の運営に携わることになった場合の心構えや対応力を養成することにもつながった。学生は多様な避難者および避難所で生じる問題を想定し、臨機応変に対応することの困難さを自分事に置き換え、防災行動に対する複眼的な目を養うことでサスティナブルな防災意識向上に資する大学教育の在り方を学生とともに探求することができたことが今年度の大きな成果である。

次年度、令和5年度も千代田学の共同事業として展開していくことを計画している。過去2年間の研究成果を活かし、5大学において、地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発を試みる予定である。千代田区内の公共施設および企業と連携し、各大学のKUGの効果および帰宅困難者受入れ施設としての運営能力を検証するとともに、より精度を高めた施設運営ガイドラインを作成し、各大学で共有する。同時に、災害復興や防災対策に役立てるために、千代田区における過去の災害の記録、また、防災に必要な情報・用具等の動画コンテンツ等を再編集し、その効果を検証していく。各段階で、研究により得られた知見や解決した問題点などの資料を、千代田区の危機管理政策経営担当部門に提供したい。

千代田区キャンパスコンソの複数の大学で取組むことにより、1つの大学による提案では難しい多角的な視点から調査・研究をすすめ、各大学の学生が連携して取り組み、多様なものの見方・考え方を理解し、新しい気づきにより柔軟な発想によって千代田区に貢献できる研究提案をしていきたい。

（研究総括・酒井 治子）

# 謝 辞

昨年度から引き続き、千代田区より助成を頂き、令和4年度の研究活動が出来ましたことに深く感謝いたします。これを機に、千代田区の帰宅困難者支援の施策に学び、大学の役割を、教職員が学生と共に語り合い、学びあう機会を持つことができました。防災・減災意識を高めることは、学生・教職員の互いの命を守ることはもとより、家族、地域と共に、過去を生きてきたこと、また、これから生きていくことへの期待と挑戦となっていくことなのでしょう。同時に、本研究を通して、千代田区キャンパスコンソの活動自体も強化することができたことも財産となっています。

本研究を進めるにあたりまして、千代田地域振興部コミュニティ総務課、政策経営部災害対策・危機管理課、千代田保健所健康推進課の皆様には、研究事業の遂行を多面的にご支援いただきました。心より感謝申し上げる次第です。また、私たちの研究活動を支援し続けていただきました関係者の皆様のご理解とご協力に、この場をお借りして深甚の謝意を表したいと存じます。

今後も千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）の活動にご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

## 執筆者（50音順）

伊藤 マモル（法政大学 法学部 教授）	：第3章 第1節、第4章 第1節
近藤 壮（共立女子大学 文芸学部 准教授）	：第2章 第2節、第4章 第4節
酒井 治子（東京家政学院大学 人間栄養学部 教授）	：第1章、第3章 第3節、第4章 第2節
下坂 智恵（大妻女子大学 短期大学部 家政科 教授）	：第3章 第4節
谷島 貫太（二松学舎大学 文学部 准教授）	：第2章 第3節、第4章 第3節
堀 洋元（大妻女子大学 人間関係学部 准教授）	：第3章 第2節、第4章 第5節・第6節
水田 瑠奈（共立女子大学大学院 修士課程1年）	：第2章 第1節

（所属は2023年3月現在）

## 令和4年度 「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度 共同事業 自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究 (2) 教職員および学生を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発 報告書

令和5年（2023）3月

「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）」  
幹事校 東京家政学院大学 人間栄養学部 酒井 治子  
〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地  
TEL:03-3262-2251



千代田区キャンパスコンソ

Chiyoda Campus Consortium